

東洋哲学研究所の創立50周年、おめでとうござい  
ます。

私は（2009年に）貴研究所で講演させていただ  
きました（池田大作とデュイイ・ひとつの宗教的対話」、第25  
回学術大会で）。

その際、私が見したのは、心のこもるもてなしで  
あり、また研究所の高い学術レベルであり、そして研

## 「新・啓蒙時代」の使者と期待

ジム・ガリソン

ルギーと能力でした。お会いした他の皆さまと同様、  
彼らは礼儀正しく、うやうやしい態度でしたが、それ  
にもかかわらず、突っ込んだ質問を臆することなく投  
げかけ、その問題を熱心に探究していました。これは  
明らかに、先輩の研究者の方々のご指導のたまものだ  
と思います。この事実は、研究所の次の50年が明るい  
ことを予告しています。

世界は今、

新たに「ポス

ト世俗化時

代」を迎えつ

つあります。

究所の目標に向かって情熱的に取り組んでおられる皆  
さまの姿でした。その目標とは、日蓮仏教と法華経が  
世界の精神的・宗教的遺産に大きく貢献することであ  
り、また、すべての宗教的伝統が人類と世界平和に奉  
仕できる道を探求しつつ、宗教間対話の重要性に貢献  
するということです。

とくに印象的だったのは、若い研究員の方々のエネ

この時代は、新たな世界的啓蒙時代を要求しています。  
それは、18世紀といういわゆる「啓蒙時代」にヨーロッ  
パを席卷した、より狭い思考をはるかに超えたもので  
す。

かつての啓蒙時代は（文化伝統などの）背景から切り  
離された、抽象的で、普遍的な理性。それだけが、よ  
りよい世界をもたらすことができる」と思い込んでい

門外不出の仏教文献が展示された「法華経とシルクロード」展。東洋哲学研究所が学術交流協定を結ぶ「ロシア科学アカデミー東洋学研究所サントペテルブルク支部（現・東洋古文書研究所）」の所蔵する貴重な古写本47点が展示され、創立前も会場へ（1998年11月9日、東京・新宿区内）



ました。宇宙のより偉大な力に支えられる必要などないといふのです。それは人間の感性や宗教的感情に対する偏狭な考えでした。

これからの「新・啓蒙時代」は、理性と科学の役割を評価しつつも、「意味」と「価値」とを他の文化的・宗教的伝統と共同で創造することを求めています。そして、互いの違いを尊重するばかりでなく、目標のために助け合いながら、共通の「人間性」をはぐくもうとするコスモポリタニズムを要求しています。

私は、東洋哲学研究所は、この新時代の使者であると考えているのです。

(Jim Garrison / 米国ジョン・デューイ協会前会長)